

地域密着型金融推進計画の推進状況(要約)

(1) 地域密着型金融推進計画の進捗状況(17年4月～19年3月)

平成17年4月から19年3月までにおける「地域密着型金融推進計画」に関する進捗状況について、次のとおりご報告いたします。

「地域密着型金融推進計画」につきましては、当金庫にとって、地域経済の再生・活性化と中小企業金融の円滑化を目指す拠りどころであり、早期に実効をあげるべく取り組んでまいりました。

企業への経営支援、ランクアップに資する「目利き力ある人材」の育成を目指し、業界内研修へ営業店長を継続して派遣し、また研修後の復命研修を実施し、経営改善等に関する支援能力の向上を図りました。その結果、経営改善支援に資する能力を備えた人材が育ってきております。またその知識を、金庫内普遍的なものとするため、勉強会や研修を行っております。今後は研修対象をより広げ、職員全体の能力向上を図ってまいります。

しかしながら経営改善支援につきましては、先数を増加して26先といたしましたが、予想以上の当該企業業種の低迷により、ランクアップを果たしておりません。今後は今までの大口の経営支援先だけでなく、小口の対象先を多く手がけ、ランクアップにつなげることを目指してまいります。

また、担保・保証に過度に依存しない融資推進として、「クイック応援団」の限度額の引上げ・融資条件の緩和を行い、また「しんきん秋田スギ住宅ローン」を発売し、県産木の消費拡大と併せ、推進を図っております。

個人情報に関する管理や、与信取引に関する説明、苦情処理については、規定およびマニュアルを整備し、全課店について監査を行い、管理および適正な取扱いの徹底を図っております。

顧客満足度調査は2度目となり、内容を分析検討し、調査結果を全職員に還元し周知徹底を図り、改善策を検討しお客様の利便性向上に引き続き取り組んで参ります。

2年前に設定しました公表数値目標につきましては、昨年の中間時点で一部達成が懸念される数値もございましたが、コア業務純益、経常利益、自己資本比率すべて目標を上回る実績となりました。今後も堅実な実績を積み重ね、お客様に信頼され、満足度の高い「まちの金融機関」を目指し、「持続的発展が可能な地域社会づくりに向けた金融」の実現に向け、地域経済の再生・活性化に寄与し、中小企業金融の円滑化を図るべく努力してまいります。

(2) ① 大項目毎の進捗状況、進捗状況に対する分析・評価及び今後の課題

大項目	17年4月～19年3月の進捗状況		19年3月までの進捗状況に対する分析・評価及び今後の課題 (19年3月までの成果、今後の課題に対する対応方針等を含む)
	18年10月～19年3月の進捗状況		
①事業再生・中小企業金融の円滑化	<p>①「経理担当者研究会」「うごしんクラブ」を開催、ビジネスマッチング登録企業の増強を図りました。</p> <p>②経営改善支援実施先を26先としましたがランクアップ先はありませんでした。</p> <p>③「与信取引に関する顧客への説明態勢に係る規則」を制定し、監査部門が確認を行っております。</p>	<p>①ブロック別新規訪問活動を実施し、情報提供と支援強化推進を図りました。</p> <p>②利用額を拡大した「クイック応援団」の利用促進を図りました。</p> <p>③中小企業の資金調達手法の多様化に対応するため、地域CLO・シンジケートローン・動産担保融資等のノウハウの習得を行いました。</p>	<p>①今後も企業経営の支援や、経理担当者の啓発、経営相談・ビジネスマッチング等の支援を図ってまいります。</p> <p>②クイック応援団・しんきん秋田スギ住宅ローンの利用拡大等引続き担保・保証に過度に依存しない融資推進に努めます。</p> <p>③お客様からの苦情は、店長会議等で営業店に還元し、同種の苦情防止や、対応の改善に役立ててまいります。</p> <p>④経営改善支援は、今後小さな対象先を多く手がけ、ランクアップを目指します。</p>

大項目	17年4月～19年3月の進捗状況		19年3月までの進捗状況に対する分析・評価及び今後の課題 (19年3月までの成果、今後の課題に対する対応方針等を含む)
		18年10月～19年3月の 進捗状況	
②経営力の強化	<p>①資金運用基準を見直し、毎年信金中金による債券ポートフォリオ分析を行い、安定運用を目指しております。</p> <p>②信用格付のデータ整備が進展し、数値データ蓄積となり、利用が可能となりました。</p>	<p>①新しい自己資本比率の算出に向け多くの検討をしました。</p> <p>②半期開示のミニ・ディスクロージャー誌に損益の状況を開示しました。</p> <p>③ITの活用のため自己査定サーバ、金庫集中サーバを導入しました。</p>	<p>①バーゼルⅡについては今後も情報把握が必要であり、各課と連絡を密にし、対応いたします。</p> <p>②個人事業主の信用格付に着手していく予定です。</p> <p>③コンプライアンス臨店指導や、監査課による指導を有効に利用し、法令遵守態勢を強化していきます。</p> <p>④信金中金との連携、効果的利用促進を検討してまいります。</p>
③地域の利用者の 利便性向上	<p>①多数のお客様の協力を得て、顧客満足度調査を実施し、HPで情報開示しました。</p>	<p>①2度目の顧客満足度調査を行い、調査結果を分析しました。</p>	<p>①顧客満足度調査はまだ2回目であり、継続により利用者のニーズを把握し、改善等によりお客様の利便性向上に引き続き努力いたします。</p>

(2) ② アクションプログラムに基づく個別の取組みの進捗状況

項目	具体的な取組み	スケジュール		進捗状況	
		17年度	18年度	17年4月～19年3月	18年10月～19年3月
1. 事業再生・中小企業金融の円滑化					
(1) 創業・新事業支援機能等の強化	1. 業界団体の研修に継続して受講者を派遣し、庫内研修と併せ職員の能力向上を図ります。 2. 中小公庫との業務提携、信金中金・商工会・保証協会との連携強化、情報共有化を図ります。	・外部研修の受講 ・内部研修(復命研修を含む)の実施 ・中小公庫との業務提携 ・信金中金・商工会・保証協会との連携強化 ・ブロック別渉外支援制度を活用した情報提供・支援強化	・外部研修の受講 ・内部研修(復命研修を含む)の実施 ・中小公庫との業務提携 ・信金中金・商工会・保証協会との連携強化 ・ブロック別渉外支援制度を活用した情報提供・支援強化	1. 業界の「目利き力養成講座」へ支店長を派遣し、併せて庫内研修も実施。 2. ブロック別新規訪問支援活動を毎年実施、ベンチャー企業発掘のため情報収集・融資締結を推進。平成17年度、9月～12月。平成18年度、9月～19年1月に実施。	1. 業界団体の講座は上期であり、この期間の進捗なし。 2. 9月～19年1月にブロック別新規訪問支援活動を実施。
(2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化	1. 「経理担当者研究会」「うごしんクラブ」を継続し、取引先ニーズに対応します。 2. 「うごしんビジネスマッチング」も一層の推進を図ります。 3. 業界団体開催研修への受講者継続派遣、保証協会・商工会との連携強化、中小企業診断士の育成を図ります。 4. 経営改善支援先を各店1先追加し支援を強化します。	「経理担当者研究会」「うごしんクラブ」の開催による取引先ニーズへの対応 ・ビジネスマッチングの一層の推進 ・業界団体開催研修への受講者継続派遣、保証協会・商工会との連携強化、中小企業診断士の育成を図る。 ・経営改善支援先を各店2先とし、支援を強化する。	「経理担当者研究会」「うごしんクラブ」の開催による取引先ニーズへの対応 ・ビジネスマッチングの一層の推進 ・業界団体開催研修への受講者継続派遣、保証協会・商工会との連携強化、中小企業診断士の育成を図る。 ・経営改善支援先を各店2先とし、支援を強化する。	1. 毎年、事業所の経理担当者を対象とする「経理担当者研究会」等情報交換会を開催し、経営相談・企業支援を強化。 2. 平成16年7月「うごしんビジネスマッチングクラブ」を創設し、利用申込企業の増加を図り、現在35先が登録。 3. 東北地区信用金庫協会の「企業再生・支援講座」に営業店長を継続的に派遣、復命研修の実施と、経営相談・支援機能の充実を図る。 4. 経営改善支援先を26先に増加し、取組を強化。 5. HP・ディスクロージャー誌において経営改善支援先数、ランクアップ先数を公表。	1. 2. この期間の実績なし。 3. この期間の進捗なし。 4. 経営改善に努力したが、ランクアップ先なし。 5. HP上で経営改善支援先を公表。
(3) 事業再生に向けた積極的取組み	1. 外部研修による企業再生の人材育成と、ノウハウの蓄積を図ります。 2. 「中小企業再生支援協議会」「信金中金(総合研究所)」との関係強化で再生支援に活用を図ります。 3. 中小公庫との情報交換を企業再生支援に活用します。	1. 外部研修による企業再生の人材育成と、ノウハウの蓄積を図る。 2. 「中小企業再生支援協議会」「信金中金(総合研究所)」との関係強化で再生支援に活用を図る。 3. 中小公庫との情報交換を企業再生支援に活用	1. 外部研修による企業再生の人材育成と、ノウハウの蓄積を図る。 2. 「中小企業再生支援協議会」「信金中金(総合研究所)」との関係強化で再生支援に活用。 3. 中小公庫との情報交換を企業再生支援に活用 4. 再生支援実績、再生ノウハウ等の事例の公表	1. 東北地区信用金庫協会の外部研修に職員を継続派遣し、復命研修と人材育成ならびにノウハウの蓄積を図る。 2. 3. 4. 対象企業がなかったが、中小企業再生支援協議会及び中小公庫、及び信金中金(総合研究所)との関係強化を図る。	2. 3. 4. この期間の進捗はなし。
(4)①担保・保証に過度に依存しない融資の推進等	・「クイック応援団」「売掛債権担保融資」の積極的推進を図ります。 ・適正貸出金利(プライシング)の設定を検討します。	・「クイック応援団」「売掛債権担保融資」の積極的推進を図る ・適正貸出金利(プライシング)の検討を行う	・「クイック応援団」「売掛債権担保融資」の積極的推進を図る	保証協会との連携で独自の保証商品「クイック応援団」を開発し、売掛債権担保融資保証制度などの取扱いを推進。 「クイック応援団」の利用促進のため、平成18年9月に利用額を拡大。 18年3月より保証会社保証を条件としない「しんきん秋田スギ住宅ローン」を発売し、併せて秋田県産木の消費拡大を図る。	「クイック応援団」と売掛債権担保融資の推進をしました。
(4)②中小企業の資金調達手法の多様化等	・知識習得のため、中小公庫・信金中金関連会社からの講師を要請し、ノウハウの蓄積を図ります ・地域CLO等について情報を集め検討します。	・知識習得のため、中小公庫・信金中金関連会社からの講師を要請し、ノウハウの蓄積を図る ・地域CLO等について情報を集め検討する	・知識習得のため、中小公庫・信金中金関連会社からの講師を要請し、ノウハウの蓄積を図る ・地域CLO等について情報を集め検討する	知識習得のため、中小公庫・信金中金等の研修会には積極的に毎回参加。	具体的には、地域CLO・シンジケートローン・動産担保融資等のノウハウを習得。

項目	具体的な取組み	スケジュール		進捗状況	
		17年度	18年度	17年4月～19年3月	18年10月～19年3月
(5)顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化	・顧客向け説明対応マニュアル等の整備を図り、庫内研修等の周知徹底を行い、苦情発生時の分析・対応方法・防止策等を営業店に還元し、発生防止を強化します。	・顧客向け説明対応マニュアル等の整備を図り、庫内研修等の周知徹底を行い、苦情発生時の分析・対応方法・防止策等を営業店に還元し、発生防止を強化する。 ・監査部門の強化を図り、営業店実効性向上に努める。	・顧客向け説明対応マニュアル等の整備を図り、庫内研修等の周知徹底を行い、苦情発生時の分析・対応方法・防止策等を営業店に還元し、発生防止を強化する。 ・監査部門の強化を図り、営業店実効性向上に努める。	1. 平成17年8月に「与信取引に関する顧客への説明態勢に係る規則」を制定、平成17年11月に「与信取引に関する顧客の意思確認要領」を制定。 監査部門は「与信取引の説明」を内部監査項目とし、17年10月以降「与信取引のチェック表」により確認。 2. 苦情等の分析結果をコンプライアンス責任者研修で取上げ、再発防止を検討。取引の適切性確保の再徹底も行った。 監査部門では、苦情処理も内部監査項目とし、報告もれや、対応改善措置について確認を行った。	1. 「顧客への説明態勢の強化」について、店長会議その他研修会を活用し、全職員への周知徹底を図る。 監査部門では、与信取引の説明は「与信取引のチェック表」により、また苦情処理については報告もれ、適切な対応措置がとられたか検査を実施。 2. 苦情等は、コンプライアンス責任者研修で事例を営業店に還元、対応方法、再発防止への研修を行った。また上記1と同様内部監査項目として確認を行った。
(6)人材の育成	・業界団体開催の「目利き力養成講座」へ店長を継続派遣します。 ・通信講座「目利き力養成講座」の受講奨励します。	・業界団体開催の「目利き力養成講座」へ店長を継続派遣 ・通信講座「目利き力養成講座」の受講奨励	・業界団体開催の「目利き力養成講座」へ店長を継続派遣 ・通信講座「目利き力養成講座」の受講奨励	東北地区信用金庫協会の「目利き力養成講座」へ営業店長を継続的に派遣し、経営相談・支援機能の充実を図る。	当期間での進捗なし。
2. 経営力の強化					
(1)リスク管理態勢の充実	1. 現在の自己資本比率算出の検証、及び新リスク算出方法の検討を行います。 2. 市場リスク管理を更に充実させ、有価証券ポートフォリオ分析と計画化を図ります。 3. 情報開示の拡充を図ります。	2. 資金運用基準の見直し 市場リスク管理要領の見直し 有価証券ポートフォリオ分析	1. 自己資本比率算出方法の検討 2. 資金運用基準の見直し 有価証券ポートフォリオ分析 3. リスク管理態勢の情報開示拡充を検討	1. 自己資本比率算出結果について監査課の検証を受け、精緻化を図る。 2. 17年10月に資金運用基準の見直しを行った。また同11月に信金中金に依頼し、債券ポートフォリオ分析を行った。18年も信金中金に依頼し、債券ポートフォリオ分析実施。 18年8月より、より詳細にした債券のリスク管理資料を毎月常務会に提出し、リスク量の認識を共有。	1. 新しい自己資本比率算出について、検討を加えた。
(2)収益管理態勢の整備と収益力の向上	1. 内部格付制度の構築を目指します。 2. 標準金利設定のための内部基準を整備します。 3. 管理会計を整備し、部門毎の収益管理を目指します。	1. 個人事業主信用リスクデータの入力開始 2. 標準金利設定基準を整備する。 3. 管理会計による営業店毎の収益把握	1. 個人事業主信用リスクデータの活用 内部格付制度の検証開始 2. 標準金利設定基準を検証する。 3. 管理会計の整備、業績等の管理	1. 信用格付(法人)のデータ整備は順調に推移。しかし、個人事業主の信用格付にまでは着手できず。 3. 管理会計による営業店毎の収益把握を検討、実際の収益把握までには至らず。	2. 「貸出金利設定基準」の作成準備にはいりませんでした。 3. 管理会計による営業店毎の収益把握を検討したが、実際の収益把握までには至らず。
(3)ガバナンスの強化	1. 半期開示の内容に関し、業界団体の検討を踏まえその充実に努力します。 2. ガバナンス強化のため、業界団体の検討を踏まえ、会員の意見等を総代会に反映させる方法を検討します。	1. 半期開示の内容を充実し公表します。 2. ガバナンス強化については業界団体の検討を踏まえ対応します。	1. 半期開示の内容を充実し公表します。 2. ガバナンス強化については業界団体の検討を踏まえ対応します。	1. 17年11月と18年11月に半期開示ミニ・ディスクロージャー誌を発行し、同時にホームページに同内容を載せて公表。	1. 18年11月に半期開示の損益の状況開示を加えたミニ・ディスクロージャー誌を作成し、HPに載せ公表。

項目	具体的な取組み	スケジュール		進捗状況	
		17年度	18年度	17年4月～19年3月	18年10月～19年3月
(4)法令等遵守(コンプライアンス)態勢の強化	1. 営業店に対する法令等遵守状況の点検強化を検討します。 2. 個人データの安全管理について年1回の監査を実施します。 顧客情報管理チェックリストの作成と定着化を図ります。	1. 営業店における法令等遵守状況の点検を検討 2. 個人情報管理チェックリストの作成 個人情報管理に関する全店全部署監査実施	1. 営業店における法令等遵守状況の点検・指導等を実施 2. 個人情報管理に関する全店全部署監査実施	1. 営業店でのコンプライアンス研修は毎月実施、法令遵守意識が向上。 コンプライアンス臨店指導要領を制定。 2. 個人情報保護に関するチェックリストを作成、個人情報の適正な取扱いに努めた。 個人情報保護に係る個人データの再点検を17年10月～12月に実施、金融商品販売の契約について、圧力的取引がないか取引の適切性について調査を実施。	1. 9月後半よりコンプライアンス臨店指導を開始。 2. 「個人情報保護監査チェックシート」により個人情報の監査を行った。19年2月に営業店全職員に対し不祥事件未然防止のための営業店指導を行い、法令等遵守態勢の強化を図る。
(5)ITの戦略的活用	1. ATM等撤退の金融機関の情報収集を図ります。 2. 設備投資の検証を実施します。 3. ITに係る人材の育成を図ります。	1. ATM等撤退の金融機関の情報収集を営業店に指示 2. 設備投資の検証を実施 3. 庫内にてIT関連研修を実施する。	1. ATM等撤退の金融機関の情報収集を営業店に指示 2. 設備投資の検証を実施 3. 庫内にてIT関連研修を実施する。	1. ATM等撤退金融機関の情報収集を営業店に指示。 2. 17年6月にコミュニケーションサーバ、18年10月自己査定サーバ、18年12月に金庫集中サーバを導入。 3. IT関連研修では、自己査定研修を実施。	1. 当期については、ATM共同運行等に該当する事案はなく、引続き情報収集を行う。 2. 18年10月自己査定サーバ、18年12月に金庫集中サーバを導入。
(6)協同組織中央機関の機能強化	1. 信金中金の分析能力を活用した市場リスク管理態勢の強化を目指します。 2. 信金中金提供機能商品の検討と活用を目指します。	1. 有価証券ポートフォリオ分析を信金中金に依頼 2. 信金中金提供商品の検討と活用	1. 有価証券ポートフォリオ分析を信金中金に依頼 2. 信金中金提供商品の検討と活用	1. 17年11月と18年11月に有価証券ポートフォリオ分析を行い、当庫の有価証券運用の注意点を確認。 2. 信金中金の提供商品の検討を行うが、当金庫の運用希望に合致する商品なく利用せず。	1. 11月に信金中金の有価証券ポートフォリオ分析実施。 2. 信金中金の提供商品利用なし。
3. 地域の利用者の利便性向上	1. 地域貢献に関する情報開示をより積極的に行い、当金庫預金が地域で活かされている状況を分かりやすく開示します。 2. 利用者からの質問事項等をQ&A方式にまとめ、開示を検討します。 3. 顧客満足度調査を行い、結果分析の上経営改善に活かす努力をします。 4. 地公体、地元商工会等との情報強化に努め、地域振興の関与に勤めます。	1. 地域貢献情報開示の検討 3. 顧客満足度調査を実施し、分析の上対応を協議 4. 地域活性化に向けた案件の発掘、情報収集を図り、地公体との関係を強化する	1. 地域貢献情報開示への取り組み 2. 第1次Q&Aの作成公表 3. 顧客満足度調査の結果分析と、対応策の公表を行う。対応策の実行 4. 地域活性化に向けた案件の発掘、情報収集を図り、地公体との関係を強化する	1. 2. 地域貢献情報に関し、17年、18年ともディスクロージャー誌に図表を加えより充実した開示。 3. 利用者の満足度、利便性向上のためにアンケート調査を実施、調査結果をホームページ等で広く情報開示。 平成18年1月 利用者満足度アンケート調査 実施 平成18年11月 利用者満足度アンケート調査 実施 4. 地域活性化に向けた案件の発掘及び情報収集を継続。	3. 平成18年11月利用者満足度アンケート調査を実施。 4. 案件の発掘に向け、情報収集を継続するが、具体的進展なし。

経営改善支援の取組み実績

信用金庫名 羽後信用金庫

【17～18年度(17年4月～19年3月)】

(単位:先数)

	期初債務者数	うち			
		経営改善支援取組み先 α	α のうち期末に債務者区分がランクアップした先数 β	α のうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 γ	
正常先	1,508	0		0	
要注意先	うちその他要注意先	146	23	0	23
	うち要管理先	19	0	0	0
破綻懸念先	16	3	0	3	
実質破綻先	32	0	0	0	
破綻先	44	0	0	0	
合計	1,765	26	0	26	

- 注) ・期初債務者数及び債務者区分は17年4月初時点のものです。
 ・債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業(個人事業主を含む。)であり、個人ローン、住宅ローンのみの先を含んでおりません。
 ・ β には、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載しております。
 なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者は α に含めるものの β に含めておりません。
 ・期初の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に債務者区分が「うちその他要注意先」にランクアップした場合は β に含めております。
 ・期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については(仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても)期初の債務者区分に従って整理しております。
 ・期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含めておりません。
 ・ γ には、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先数を記載しております。
 ・みなし正常先については正常先の債務者数に計上しております。

経営改善支援の取組み実績

信用金庫名 羽後信用金庫

【18年度(18年4月～19年3月)】

(単位:先数)

	期初債務者数	うち		αのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 β		αのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 γ	
		経営改善支援取組み先	α				
正常先	1,292		0				0
要注意先	うちその他要注意先	158	23		0		23
	うち要管理先	24	0		0		0
破綻懸念先	42		3		0		3
実質破綻先	133		0		0		0
破綻先	66		0		0		0
合計	1,715		26		0		26

- 注) ・期初債務者数及び債務者区分は18年4月初時点のものです。
 ・債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業(個人事業主を含む。)であり、個人ローン、住宅ローンのみの先を含んでおりません。
 ・βには、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載しております。
 なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者はαに含めるもののβに含めておりません。
 ・期初の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に債務者区分が「うちその他要注意先」にランクアップした場合はβに含めております。
 ・期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については(仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても)期初の債務者区分に従って整理しております。
 ・期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含めておりません。
 ・γには、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先数を記載しております。
 ・みなし正常先については正常先の債務者数に計上しております。

公表数値目標の達成状況(17年4月～19年3月)

信用金庫名 羽後信用金庫

公表数値目標の内容	公表数値目標 (注1)(注2)	実績	評価	「推進計画の進捗状況(17～18年度)」において達成状況を公表(予定を含む)している公表数値目標(注4)	備考
	19年3月末 (17～18年度中) 目標	19年3月末 (17～18年度中) 実績	19年3月末時点での目標に対する達成状況の評価(注3)		
コア業務純益	300百万円以上	351百万円	①	○	
経常利益	150百万円以上	294百万円	①	○	
自己資本比率	18%以上	24.45%	①	○	

(注1)「公表数値目標」とは、「地域密着型金融推進計画」(以下「推進計画」)において公表した数値目標であります。

(注2)「公表数値目標」「実績」欄には、原則、19年3月末(17～18年度)[2年間]の公表数値目標及び実績を記載しております。

(注3)「19年3月末時点での目標に対する達成状況の評価」については、「目標を上回り達成」の場合は「①」を記載、「目標を概ね達成」の場合は「②」を記載、「目標の達成には至らなかった」場合には「③」を記載しております。

(注4)「『推進計画の進捗状況(17～18年度)』において達成状況を公表(予定を含む)している公表数値目標」については、達成状況の公表(予定を含む)を行っているものに「○」を付しております。